

# 2019 年度事業報告

## I. 社会的養護の必要な子どもの自立支援

### 1. こども・若者未来基金

#### (給付について)

- ・こども・若者未来基金による、子ども・若者の自立を支援しました。2019 年度は、17 人 23 件の応募があり、内 2 人 3 件の辞退がありました。その結果、15 人 20 件に対し、699 万円の支援を決定しました。
- ・支援の内訳は、くらしスタート・住宅サポート（1 人暮らしを始めるにあたり必要な資金を援助）（以下くらしスタート）10 件 230 万円、くらしサポート（進学した子どもの月々の生活の援助）6 件 384 万円、まなびサポート（入学や進級時の一時金）3 件 70 万円、資格サポート（資格取得に必要な資金の援助）1 件 15 万円です。
- ・支援先決定のための面接は、基金運営委員会メンバーから選考委員を選出し、各回 5 名の選考委員が 12 月と 2020 年 1 月に 2 回の面接を行いました。選考委員の報告を受け、基金運営委員会にて支援を決定しました。
- ・面接は、「本人の意思」「伴走者の推薦理由」「資金計画の適正さ」「伴走力」「緊急性」の 5 つの視点を持ち行いました。
- ・2020 年度より国の新しい給付型奨学金（生活費）と大学等の授業料減免が始まることに伴い、国の動きが見えない中、日本学生支援機構に状況などを確認しながら基金運営委員会で進学する子どもたちへの支援について議論しました。
- ・次年度以降の基金の内容については、支援した学生や伴走者に、国制度に基づく奨学金の影響を聞き取るなどして、検討する必要があります。

#### (途中も緊急もサポート)

- ・期間を設けて募集するものと別に、「途中も緊急もサポート（以下途中も緊急も）」というメニューがあります。例えば「仕事をしていたが体を壊してしまい働けなくなった。収入がなくなり当面の生活費がない。」などという緊急のものに対応するもので、今年度は 3 件 30 万円の支援をしました。
- ・全国児童養護施設協議会「平成 26 年度児童養護施設入所児童に関する調査」によると、卒業後に就職した子どもの約 20%が半年で、30%強が 1 年半で退職しています。また就学した子どものうち約 14%が 1 年半で退学しています。
- ・ちばこどもおうえんだんが 2017 年度・2018 年度に支援をし、新しい暮らしをスタートした若者の中にも、人間関係がうまくいかず退職したり、連絡が取れなくなるなどつまづく子どもたちが出てきています。
- ・新生活をスタートするこども・若者の支援については、国や民間の奨学金などが充実してきました。しかし「やり直し」への支援は、ほとんどありません。つまづきを経験した若者がもう一度やり直すことを支援することの重要性が、この間基金を運営する中で明確になってきました。「途中も緊急も」のメニューを拡充する必要性を実感しています。次年度以降の検討課題とします。

#### (寄付募集について)

- ・こども・若者未来基金の寄付は、目標 10,000,000 円に対し、実績は 8,545,596 円でした。辞退者も含めた助成申請額は 1,132 万円、辞退者を除くと 928 万円の助成申請額に対し、寄付総額が不足しています。寄付目標の達成が課題です。
- ・基金運営委員会参加 3 生協（パルシステム千葉・なのはな生協・生活クラブ生協）の組合員からの寄付は、6,776,366 円でした。9~11 月をキャンペーン月間として、集中して寄付を呼びかけましたが、秋の台風等の自然災害の影響で他の寄付に流れ、当初は寄付額が伸び悩みました。追加募集等も行った結果、最終的には前年同様の寄付を集めることができました。
- ・寄付目標額 1,000 万円のうち、ちばこどもおうえんだん独自の寄付目標額は、昨年度同様 200 万円としました。クラウドファンディングを含む寄付総額は、1,769,230 円です。

・集まった寄付のうち15%は基金の管理運営費です。

#### (クラウドファンディングについて)

・200万円の目標で80日間クラウドファンディングを行いました。結果は振るわず、パトロン（寄付者）はほとんどが顔の見える人からのものでした。パトロン（寄付者）は38人、寄付額は255,000円で目標額の13%にとどまりました。

・クラウドファンディングは、初速と拡散力が必要と言われていますが、スタート前の準備不足と拡散力不足が敗因と考えます。期間中は、クラウドファンディングに重点を置いた事務局体制などの役割分担を工夫することも必要です。

・クラウドファンディングの目標額については、こども・若者未来基金への直接の寄付もあるため、直接の寄付の予測額を差し引いた設定にし、スモールステップで段階を踏みながら、徐々に大きい目標にしていくことも検討します。

#### (3 生協との連携)

・各生協の組合員へ向け、寄付募集活動の報告と次年度以降の寄付募集につなげるために、統一の報告書を作成し、配布しました。また、シンポジウム等の告知のお知らせも統一のものを作成して活用しました。

・3生協での寄付集めを有効に行うため、5回生協実務者会議を行いました。

#### (周知・広報について)

##### ●報告会

・5月には、2018年度に支援をした子どもたちの声を聞く報告会を開催しました。

日時：5月25日（土） 千葉市生涯学習センター大研修室 参加者81名

第1部 基調講演 高橋 亜美さん（ゆずりは代表）

第2部 こども・若者未来基金2018年度助成を受けた子どもからの報告

・長い間こども・若者の自立を支えてきた高橋亜美さんの言葉の一つひとつが参加者の心に響いた基調講演となりました。今後も、直接子どもたちの支援をしている人の話を聞く機会を作り、この基金の必要性についても伝えていきたいと思えます。

・基金報告会は、寄付者や興味関心のある人が子どもたちの生の声を聞くことができる機会となっています。子どもたちに負担をかけないことを念頭に置き、今後も実施していきます。

##### ●シンポジウム

・生協実務者会議を中心に2回の子どもたちの現状や基金について知ってもらうためのシンポジウムを開催しました。

第1回 10月5日（土） 千葉商工会議所 参加者79名

基調講演 草間 吉夫さん（元茨城県高萩市長）

第2回 10月31日（木） スカイルーム柏 参加者52名

登壇者 山田 久美子さん（ホーム南柏スタッフ）

鈴木 博貴さん（児童養護施設望みの門かずさの里職員）

・秋のシンポジウムは、寄付募集のキックオフ的な位置づけとして大事な会です。基金について理解を深めるためにも、今後も継続します。

##### ●その他

・広くこの基金を活用してもらうため、千葉県児童福祉施設協議会の施設長会と、県内児童相談所所長会にて告知しました。また児童養護施設に、資料を送付しました。またfacebookやHPでも基金の申請の募集について告知しました。

#### (その他)

・8月には2018年度に支援をした若者、伴走者と基金運営委員の昼食交流会を開催しました。多くの若者が、昨

年度面接をした時より成長した姿を見せてくれました。本人が参加できず伴走者のみの参加も2名ありました。助成をして終わるのでなく、再び様子を見ることのできる貴重な機会となりました。

・この基金では、金銭的支援と就労支援を車の両輪と考えていますが、2019年度は昨年度に続き金銭支援のみ実施しました。就労支援、住居紹介については、関係機関とネットワークを作り充実させていくことが必要です。

## 【参考】

2017～2019年度給付決定状況

(単位：円)

メニュー	2017年度		2018年度		2019年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
くらしスタート	4	1,158,440	4	800,000	10	2,300,000
くらしサポート	2	2,160,000	7	5,160,000	6	3,840,000
資格サポート	3	900,000	3	900,000	1	150,000
まなびサポート	3	900,000	4	1,040,000	3	700,000
入学金つなぎサポート	0	0	1	500,000	0	0
合計	12	5,118,440	19	8,400,000	20	6,990,000
途中も緊急もサポート	0	0	0	0	3	300,000
総計	12	5,118,440	19	8,400,000	23	7,290,000

## 2. その他の自立支援

・パルシステム生活協同組合連合会の運営する、経済的理由から進学が困難な若者を対象にした「パルシステム給付型奨学金モデル事業」に、1名の子どもを推薦しました。2020年度より4年間ちばこどもおうえんだんが伴走団体となり、出身施設と連携しながら子どもと寄り添っていきます。

・「ことばキャンプ(\*1)」の養成講座に参加し、認定を受けたインストラクターとして児童養護施設への出張講座に参加し、スキルアップを図りました。施設での「ことばキャンプ」の実施は、子どもたちが言葉によるコミュニケーション力を身につけることに効果があり、自立支援の一環になると考えます。しかしながら、今後、ちばこどもおうえんだんが、どのように「ことばキャンプ」にかかわっていくのかは、認定インストラクターであり続けるためのハードルがかなり高いこともあり（自主的に地域で「ことばキャンプ教室」を開催することが求められている）、「ことばキャンプ」実施主体であるNPO法人JAMネットワークと、インストラクター（おうえんだん関係者2名）との協議が必要と考えます。

\*1：ことばキャンプの理念は「ことばのチカラで自立しよう」 子どもたちの自尊感情を大切にしながら、7つのチカラ（度胸力・論理力・理解力・応答力・語彙力・説得力・プレゼン力）のトレーニングで聞くチカラ、話すチカラ、考えるチカラの基礎を作っていくプログラムです。

## II. 貧困家庭・要支援家庭の子どもの支援事業

・今年度も、ちばこども虐待防止研究会（通称JasPCANちば）（2017年度虐待防止学会ちば大会実行委員を中心とする団体）に参加しました。2020年2月24日（月・祝）には第2回研究会を幕張メッセで開催しました。野田で起きた虐待死事件を受け、第1部基調講演は原宿カウンセリングセンター信田さよ子さんに「家族の暴力を防ぐために—DVと虐待の全体像を知る—」。第2部では虐待通報に関するグループワークを行いました。この研究会は、子どもにかかわる様々なメンバーで構成され、多職種による連携を大切にしています。今後もこの研究会に関わることで、子どもに関わる様々な人と緩やかに繋がっていきます。

・千葉県内で子ども関連の活動をしている団体と連携し、11月3日（日・祝）「ちばこどもおうえん広場2019&オレンジリボンキャンペーン」を開催しました。きぼーるを会場に、朝日新聞編集員の久保真紀さんによる虐待についての講演や子どものステージ発表、遊びのコーナーなどを企画しました。また、千葉市役所から虐待防

止のためにオレンジ色のビブスを着たライダーの乗るオレンジバイク約70台が県内各地に出発しました。

### Ⅲ. 里親家庭支援について

#### ●千葉県

・今年度は、千葉県里親大会の企画運営の事業を受託し、以下のとおり開催しました。

日時：10月20日（日） 千葉県弁護士会館 参加者100名

基調講演 坂本 洋子さん（幻冬舎「ぶどうの木」著者・里親）

里親体験談

・坂本さんの基調講演は、里親の楽しい話だけでなく、苦勞したこと、里親になるにあたり心がけてほしいこと、すべての大人に知ってほしいことなど多岐にわたりました。長い経験に基づく言葉はとても説得力がありました。

・また、里親体験談では3人の里親さんが登壇し、里親になったきっかけや苦勞したこと楽しいことなどを話してくださいました。参加者から一人でも多くの里親が生まれることを期待します。

・昨年度同様に千葉県里親制度説明会の事業についても見積もりを提出し、事業受託を目指しましたが、2者相見積もりの結果落選しました。

#### ●千葉市

・千葉市主催の「千葉市里親委託等推進委員会」に参加し、千葉市における里親推進の状況や、関係機関や団体との情報共有を行いました。

### Ⅳ. 啓発・広報事業

#### 1. 啓発事業

・社会的養護下の子どもたちの自立について考えるきっかけとなり支援につながるよう、シンポジウムを開催しました。（「Ⅰ. こども・若者未来基金」の項に記載。）

・児童虐待防止に関する啓発活動を行いました。（「Ⅲ. 貧困家庭・要支援家庭のこどもの支援事業」の項に記載。）

#### 2. 広報事業

・ニュースレターを2回発行しました。また必要に応じ、イベント案内を会員や寄付者に送付し、会の活動や情報を伝えました。必要に応じて、HPやfacebookでの情報発信を行いました。

・facebookページへの「いいね」の数は、472です。

・ちばこどもおうえんだんに参加する県内3生協（パルシステム千葉・なのはな生協・生活クラブ生協）の機関紙等へ記事を書き、組合員に向け団体の活動について知らせました。

### Ⅴ. 調査研究活動事業

・2月コープみらいきやっせ物産展に出店し、社会的養護に関するアンケートを実施する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のためイベントが中止となり、実施することができませんでした。次年度以降開催されたときに、再度実施します。

### Ⅵ. その他

#### 1. 事務局受託

・生活クラブ風の村が千葉県より事業受託している社会的養護下で育った人の自立後の支援をするちばアフターケアネットワークステーション（CANS）の事務局を継続して担い、主に、児童養護施設の子どもの対象にしたセミナーや地域の支援者に向けた研修会などの資料作成、アフターケア勉強会への協力などを行いました。

・千葉県児童福祉施設協議会の事務局機能の一部を、2018年度に続き受託しました。会議の手配や行事、寄付・招待関連について主に担いました。

## 2. その他

・「わくわくエンジン」が県内で広がるよう、ちばこどもおうえんだんは事務局としてかわりました。

2 回のナビゲーター養成講座を行い仲間作りに努めるとともに、生活クラブ生協佐倉ブロック組合員のお子さん、児童養護施設生活クラブ風の村はぐくみの杜君津職員、そしてはぐくみの杜の子どもたち（13 名）に向け、プログラムを実施しました。また名称を「わくわくプロジェクト CHIBA」としました。学校に向けてのプログラム実施も行うべく準備を進めていましたが、千葉市の小学校での実施は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止となりました。現在、わくわくプロジェクト CHIBA の活動にかかわれる人が限られてきており、今後の仲間作りが課題です。

\*2 自分のわくわくするものを見つけ、やる気をひきだし夢や希望の実現に向けていくプログラム。こどもたち、そしてプログラムを導く大人も輝かせ、人とつながり、地域づくりにつながります。

・特別養子縁組については、民間事業者との連携をはかり、普及啓発を進めていくこととしていました。8 月に社会福祉法人生活クラブの事業所として特別養子縁組あっせん事業部（ベビースマイル）が、民間事業者の一つとして開所しました。ちばこどもおうえんだんとしては、可能な範囲で、県内の社会的養護関連の情報などを提供しました。

## VII. 組織運営

### 1. 運営体制

・事業を円滑にすすめるために、以下の通り理事会等を開催しました。

理事会：【定例】4月18日（木）、5月25日（土）、7月4日（木）11月5日（火）、  
2020年3月5日（木）

【臨時】5月25日（土） 【電磁的方法による理事会】12月20日（金）

こども・若者未来基金運営委員会：6月10日（月）、9月12日（木）、12月10日（火）  
2020年1月30日（木）、3月16日（月）

生協実務者会議：5月13日（月）、6月27日（木）、9月4日（水）、11月20日（水）  
2020年2月19日（水）

### 2. 会員拡大について

・団体リーフレットをリニューアルし、上期を中心に会員拡大を目指しました。

・特におうえん会員（賛助会員）を増やして共感の輪を広げるために、様々なイベントで会員加入の案内をしました。

		目標		実績			
				2019 年度会費納入済み会員		会員総数	
		人数・団体数	口数	人数・団体数	口数	人数・団体数	口数
運営会員	個人	16 人	16 口	20 人	25 口	20 人	25 口
	団体	4 団体	53 口	4 団体	53 口	4 団体	53 口
おうえん会員	個人	150 人	150 口	95 人	114 口	153 人	203 口
	団体	10 団体	10 口	8 団体	10 口	9 団体	11 口

\*定款第3章会員第9条(3)に「継続して2年以上会費を滞納したときに、会員の資格を喪失する」とある。実績の会員総数には2018年度会費未納者も含まれる。2018年度決算報告の活動計算書「受取会費」は、「2018年度会費納入済み会員」数による。

### 3. 2019 年度事務局体制

・事務局長(常勤)1名 事務局(非常勤)2名 (2019 年度末の状況)

・認定 NPO の申請を進める中で、労務関連の整備についても千葉市より言及がありました。より信頼される団体となるために必要と考え、労災保険・雇用保険に加入しました。本来、設立から加入しなければならなかったものだったため、2 年遡り（遡られるのは最長 2 年）加入しました。これにより、事務局を担う人が継続的に出て

くることを期待します。

#### 4. 認定 NPO 取得について

・2017 年度 2018 年度を対象年度とし、認定 NPO 取得に向けて準備を進め、1 月 31 日付で認定 NPO となりました。これを機に、さらに多くの方に支援してもらえよう体制を整え、積極的な情報発信を心がけます。

#### 5. その他

・遺贈による寄付がありました。寄付してくださった方の遺志に報い、有効に使えるよう、理事会とこども・若者未来基金運営委員会で議論しました。3 年間の基金運営の中で見えた課題である、こども・若者の「やり直し」の応援のために活用します。

・8 月に CANS の事務所移転に伴い、引っ越しをしました。新しい事務所のある生活クラブいなげビレッジ虹と風では、隔月で入所団体による協議会が開催され、情報共有やいなげビレッジでの各種課題等についての協議が行われています。ちばこどもおうえんだんも、協議会メンバーとして参加をしています。

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び予定人数
自立支援事業	こども・若者未来基金 2018 報告会	5 月 25 日(土) 14:30~16:30	千葉県生涯学習センター大研修室	4 人	社会的養護の子ども の自立支援に関心のある不特定多数 81 人
	社会的養護の子ども のくらしと自立を考える シンポジウム@千葉	10 月 5 日(日) 13:30~15:30	千葉商工会議所	4 人	社会的養護の子ども の自立支援に関心のある不特定多数 79 人
	社会的養護の子ども のくらしと自立を考える シンポジウム@柏	10 月 31 日(木) 10:00~11:30	スカイルーム柏	3 人	社会的養護の子ども の自立支援に関心のある不特定多数 52 人
貧困家庭・要支援家庭の子ども の支援事業	ちばこどもおうえん広場 2019&オレンジリボン キャンペーン	11 月 3 日(日・祝) 10:00~16:00	きぼーるこども交流館ほか	4 人	子どもと子どもの支援に興味関心のある 不特定多数 300 人
	第 2 回ちば子ども虐待防止研究会	2019 年 2 月 24 日 (月・祝) 13:30~16:30	幕張メッセ	2 人	子ども虐待防止に興味のある不特定多数 120 人
里親家庭支援事業	千葉県里親大会	10 月 20 日(日) 13:30~16:00	千葉市教育会館	4 人	里親制度に興味のある不特定の参加希望者 100 人
啓発・広報事業・政策提案	SNS や HP を活用した情報発信	随時	法人事務所内	1 人	不特定多数
	ニュースレターの発行	6 月、12 月	法人事務所内	3 人	不特定多数